

のサークルがあり、休日には、サークルで出会った友達と一緒に旅行に行くなど、授業以外の機会にも多くの貴重な経験をしました。

留学生活を通して自身の常識が覆されたと感じることも多く、視野の広がりを実感し大きく成長することができました。留学は社会の中で圧倒的なマイノリティとして生活することでもあり、外国人として生活する中で気付くことが数多くあります。そうした面も含めて、毎日が刺激的でとても楽しいです。ぜひ皆さんも積極的にチャレンジしてみてくださいね！



人文科学研究科に入学して

于 潼

(う どう)

山口大学人文科学研究科 修士1年

人文科学研究科現代社会コースで社会心理学分野に所属する、修士課程1年の于潼と申します。この機会をお借りして、コロナ禍の中で大学院入試を受け、合格し入学に至った経緯と、山口大学大学院への期待を述べたいと思います。

修士課程に入学する前、2021年10月から既に山口大学で研究生として勉強してきたのですが、コロナ禍に伴う入国制限のため、オンラインで研究生生活を送っていました。その後、2022年3月に、特例入試が実施され、無事合格できました。同じ時期に日本の入国制限も緩和され、ようやく入国できると思ったのですが、ビザの発行遅れなどが理由で渡日が遅れてしまい、ようやく今年(2022年)の6月に渡日できました。待望の対面授業を受けられることとなってうれしく感じています。

山口大学の大学院で一番期待していることは、調査能力と統計能力を含めた、一連の学術的研究能力の向上です。私は大学では理系学部にも所属していたので、社会学の基礎知識はよく把握できていなかったのですが、社会学に対する趣味や研究願望が芽生え、日本語を独学し、山口大学で研究生をしながら徐々に社会学を学んできました。もちろんまだ能力や知識に不足する点は多いので、これからも社

会学の知識を把握し続けたいと考えています。そこから将来的には、リソースが限られているこの社会で、人文科学の知識を運用し、より良い社会の実現に貢献したいと考えています。

私は、生まれてからずっと北国の果てしない平原での都市で生活してきました。故郷は、大都市とは言えないのですが、賑やかな街道とさんざめく人々にあふれたところで、喧騒に少しうんざりしてきた面もあります。また故郷は、冬に入ると室外気温がマイナス30度ほどになることもありました。そのため、故郷より遥かに離れた、静かで気候も良く、また美しい街並みを持つ山口で生活することにわくわくしています。この山口で研究に没頭しながら、忘れられない記憶を作り、人生における大切な宝となる経験を得られることを楽しみにしています。

